

## ドヴォルザーク：序曲「謝肉祭」Op.92

チェコの国民的な作曲家、アントニン・ドヴォルザーク（1841-1904）は、50 歳を目前にした 1891 年、「自然と人生と愛」というテーマのもとで序曲 3 部作を書くことを計画し、スケッチを書き始めた。その第 2 曲が序曲「謝肉祭」である。ちなみに第 1 曲は「孤独の中で」、第 3 曲は「オセロ」である。3 部作は 1892 年プラハで、ドヴォルザーク自身の指揮により初演された。それぞれ独立した作品として出版されたが、3 曲は「自然」の主題と呼ばれる共通の主題を持つ。

謝肉祭とは、キリスト教の復活祭を迎える前の 40 日間（四旬節）の断食の前に行われる祭りのことで、肉などのごちそうを食べたり仮装したりしながらお祭り騒ぎをする。シューマンのピアノ曲やサン＝サーンスの「動物の謝肉祭」のように、たびたび音楽作品の題材にもなってきた。

ドヴォルザークの「謝肉祭」でも、曲の冒頭から謝肉祭の喧騒のような活気ある主題が勢いよく飛び出す。それが一段落すると、木管、弦を中心とした緩やかな中間部に入り、ここで「自然」の主題が現れる。そして再び最初の活気ある音楽へと向かい、熱狂のうちに曲は幕を閉じる。

遠山菜穂美

楽器編成：ピッコロ、フルート 2、オーボエ 2、イングリッシュ・ホルン、  
クラリネット 2、ファゴット 2、ホルン 4、トランペット 3、トロンボーン 3、  
チューバ、ティンパニ、シンバル、タンバリン、トライアングル、ハープ、弦五部  
※スコア上の表記

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。